経営学研究科

【2025 年度 大学評価総評】

夜間修士課程は、企業家養成、人材・組織マネジメント、マーケティングの 3 コース体制となり、昼間修士課程では、リサーチペーパーと修士論文の選択ができるようになり、夜間・昼間の大学院コースの特殊性を生かしながら、両者のバランスと連携の試みが続けられていること、また、それらの変更に伴った教員の配置も実現されつつあること、これらはいずれも評価できる。

また、研究科独自パンフレットのデザイン・内容を一新し配布経路を見直し、大学院や独自のホームページの充実による効果がアンケートの結果によって検証されていることが評価できる。継続をすることにより今後の入学者確保にも良い影響があると期待される。

学生代表と教員の懇談会により両者の意見交換が行われるとともに、教員相互でも情報の共有が進められていることは評価できる。メンター制度についても、日本人院生だけへの効果ではなく、留学生の学修ならびに研究実現への意義が予想されるため、大いに拡充されることが期待される。これらに関して、今後もその影響を検証されることが期待される。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

Ⅰ．改善・向上の取り組み

（１）2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024 年度大学評価結果総評】（参考）

経営学研究科では，修士（夜間）コースの再編，修士（昼間）コースの授業内容充実を中心とした教育課程の改革を進めつつ，志願者確保に向けて，ホームページや SNS での情報発信強化等の広報活動にとどまらず，コース代表者会議を設置して実質的な対策を講じるなど，不断の検討と議論を重ねている点がおおいに評価できる。

夜間コース・昼間コースの教員配置や収容定員見直しの検討を行うとともに，夜間コースにおいて培ってきた指導体制や指導方法を昼間コースと共有する際にも，活発な教員相互の意見交換やコース毎の現状の課題を共有することが推進されることに期待したい。

博士後期課程の在学生も対象に含め，研究倫理講習や図書館との連携による文献検索講習会を実施するなど，院生に対する研究指導を組織的に行っている点も高く評価できる。同時に，既に導入されているメンター制度および留学生向けのチューター制度の維持及び院生に向けた周知の拡充など，制度の有効活用に向けた取り組みにも期待したい。

【2024 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

大学評価結果総評では、経営学研究に一定の評価が与えられていると認識している。
２０２４年度から夜間修士課程は、企業家養成、人材・組織マネジメント、マーケティングの３コース体制となり、昼間修士課程では、リサーチペーパーと修士論文の選択ができるようになった。夜間修士課程で提供される講義の多様性が落ちないよう、コース共通科目を充実させる等、細心に授業編成を行った。リサーチペーパーについては、指導方法や指導体制、期待される水準等に関して、経営学研究科内で組織的な議論・情報交換を行った。リサーチペーパーの指導については、２５年度以降も継続的に議論を重ね、よりよい指導方法と指導体制を模索していく。
志願者確保に関しては、新入生アンケート等から得られた情報をもとに、独自ホームページやソーシャルメディアでの広報活動を行った。とりわけ、夜間修士課程の新入生のニーズに一定の特徴がみられることが分かったので、これを活かして潜在的志願者のニーズに合わせた広報活動を行っていく予定である。
研究倫理教育に関しては、今後も、博士課程および修士課程の学生に対して強化していく。メンター制度やチューター制度、その他サポート制度については、新入生オリエンテーション以外の場所でも継続的に周知を行い、学生の活用を促していく。

（２）改善・向上の取り組み（教育課程およびその内容、教育方法）

新しく策定したアセスメント・ポリシーに基づき、今後、ディプロマ・ポリシーに示した学習成果を

どのように把握しますか。また、その結果を研究科としてどのように活用しますか。

≪対応する大学基準：学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。≫

≪今後の計画≫
アセスメントシートを基盤に学習成果の評価・把握を行っていく。修士課程においては、修士論文およびリサーチペーパー作成過程で行われる中間発表で経営学研究科の各コース内で思考力、分析力、表現力の程度を把握する。最終的に到達した能力は、修士論文およびリサーチペーパーおよびそれに関する口述試験で把握する。授業改善アンケートも期待される学習成果の把握に役立てる。把握された学習成果は、経営学研究科内で共有する。研究科教授会で修士論文およびリサーチペーパーの評価や、単位習得状況、学位授与状況、授業改善アンケート結果等を報告することで共有を行う。共有された情報を活用して、FD 懇談会で、学生の思考力、分析力、表現力、社会で通用する能力などをどのように向上させるかを議論する。
博士後期課程においては、ワークショップや学位審査の過程で行われる公開セミナー等で思考力、分析力、表現力、研究者や専門業務に従事する能力の程度を把握する。最終的に到達した能力は、学位論文審査によって把握する。修了生アンケートも到達した能力の把握に役立てる。把握された学習成果は、経営学研究科内で共有し、目標とする学位論文の質を研究科内で共有するために活用する。また、共有された学位論文の質に到達させる指導の仕方や、学位論文審査の方針を研究科内で議論するために役立てる。

教育課程およびその内容、教育方法について、研究科として過去 4 年間（2021 年度～2024 年度）の中で特に改善・向上に向けて取り組んだ事例について、①～⑩の項目から≪改善した項目≫を選択し（レ点チェック）、その詳細について≪改善内容≫≪改善した結果良かった点・課題≫を記入してください。

≪対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫

事例

≪改善した項目≫
（複数選択可）

- ☐ ①開講時期、開講頻度、授業時間等
- ✓ ②授業科目の内容（目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合）
- ☐ ③授業科目の関係（各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等）
- ✓ ④教育方法（授業の形態、授業方法等）
- ☐ ⑤評価基準、評価方法
- ☐ ⑥学生の履修（配当年次等）
- ☐ ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続
- ☐ ⑧学習支援（単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み）
- ☐ ⑨留学、フィールドワーク等プログラムの充実
- ☐ ⑩その他

≪改善内容≫
※理由を含めて記入してください。
②授業科目の内容
昼間コースと夜間コースの改編を行った。その結果、大学院に設置されている国際経営コースとアカウンティング・ファイナンスコースを、昼間コースに統合した。昼間コースの開講科目数や種類が十分でないとの認識が以前からあったが、昼間コースの教育を充実させることにつながった。また、昼間コースを 9 の専門領域に分け、幅広い学習と関心に合わせた研究ができるように整備した。夜間コース内のコース数は減ったが、夜間コース共通科目を充実させることにより、幅広い分野の知識の習得と、より深い研究ができる体制を整えた。
④教育方法
昼間コースの修士論文を、修士論文とリサーチペーパーのどちらかを選択できる制度に変更し、整備した。原則的にリサーチペーパーを作成するが、修士論文の作成も選択できるようにすることで、学生の選択肢が広がった。リサーチペーパーの内容や指導方法、期待される質などについて、コース代表者会議や FD 懇談会などで、リサーチペーパーの導入前も後も議論を重ね、指導に活かした。

≪改善した結果良かった点・課題≫
②授業科目の内容
昼間コースの授業数と、開講科目の幅を広げられたことは、改善の結果得られた良かった点だと思われる。昼間コースの改編は完成したわけではなく、今後、よりよいコースの実現を目指して、議論を

重ね、整備していくことが課題である。
④教育方法
リサーチペーパーの導入は、多くの学生、特に留学生にとって、要求に応える改善だったと思われる。修士課程学生の多くは、博士課程進学よりも、就職を選択するのが現状である。多様な目的を持つ学生を受け入れ、適切に指導することができるのは、リサーチペーパーの導入の結果得られた良かった点だと思われる。FD 懇談会等で議論を重ねているが、リサーチペーパーの期待水準や指導方法については、教員間でばらつきがある。より議論を重ねて、収束させていくことが今後の課題である。

### （３）改善・向上の取り組み（教員・教員組織）

| | |
|---|---|
| 教員・教員組織について、研究科として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを≪項目≫の中から選択し、≪内容≫を記入してください。<br>・教員組織に対する取り組み※<br>※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理（複数の所属、他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む）について<br>・教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みとその成果<br>・授業における指導補助者（TA 等）の活用に対する取り組み<br>≪対応する大学基準：教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。≫<br>≪対応する大学基準：教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。≫<br>≪対応する大学基準：教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫ | |
| ≪特色または課題≫ | 課題 |
| ≪項目≫ | 教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みとその成果 |
| ≪内容≫<br>修士課程昼間コースでは、修士論文に加えてリサーチペーパーの選択を導入したり、９の専門領域に分けるなど、大幅な改編を行った。このような改編に対応し、質の高い教育を行える教員の能力向上と教員組織の整備が当面の課題である。リサーチペーパーの指導は、基本的には修士論文の指導と同様であると認識しているが、多様な形態や内容のリサーチペーパーを指導できるよう教員の指導スキルを向上させる必要がある。今後は、１教員が２名を超える学生のリサーチペーパー指導を担当することも十分に考えらえるため、教員の研究指導に関連するマネジメント能力の向上も要求される。<br>リサーチペーパーの指導は、２４年度が初めてとなったが、リサーチペーパーに期待する内容や水準に関しては、教員間や領域間でばらつきがある。修士論文とリサーチペーパーの違いに関する認識を教員間で共有し、それぞれの指導に対応できる教員能力を開発していく必要がある。また、リサーチペーパーの集団指導体制に関しても、領域間で違いがある。領域間の集団指導体制の差異を活かしていくべきなのか、差異をなくしていくべきなのか、議論をしていく必要がある。これらの課題に対しては、教授会、コース代表会議、FD 懇談会等で議論し、組織的に対応していく必要がある。 | |

## Ⅱ．全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

### （１）自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

| | | |
|---|---|---|
| 研究科における「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。<br>≪対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫<br>≪対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫ | S. さらに改善した又は新たに取り組んだ<br>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない<br>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。 | A（概ね従来通りである又は特に問題ない） |
| 上記項目について【ＳまたはＢ】と回答した場合は、その内容について記述してください。<br>Ｓの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。<br>Ｂの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。 | | |
| ≪内容≫ | | |

### （２）オンライン教育の取り組み

| | | |
|---|---|---|
| オンライン授業は「2024 年度以降の授業編成における留意点について（報告）」（2023 年度 | S. さらに改善した又は新たに取り組んだ<br>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない | A（概ね従来通りである又は特に問題 |

| | | |
|---|---|---|
| 第４回研究科長会議資料 No.2）に沿って、適した授業科目に用いられ、その有効性や教育効果を確認し、改善・向上を図っていますか。<br>≪対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫ | B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。 | ない） |
| 上記項目について【ＳまたはＢ】と回答した場合は、その内容について記述してください。<br>Ｓの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。<br>Ｂの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。 | | |
| ≪内容≫ | | |

（３）学生の声を活かした取り組み

| | | |
|---|---|---|
| 研究科レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。<br>≪対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫ | S. さらに改善した又は新たに取り組んだ<br>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない<br>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。 | Ｓ（さらに改善した又は新たに取り組んだ） |
| 上記項目について【ＳまたはＢ】と回答した場合は、その内容について記述してください。<br>Ｓの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。<br>Ｂの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。 | | |
| ≪内容≫<br>授業改善アンケートに研究科独自の質問を追加した。また、授業改善アンケートの結果や修了生アンケートの結果を教授会で共有した。さらに、学生の声や学習成果を把握するために、学生代表と執行部との懇談会を開き、内容を教授会で共有した。 | | |
| 授業レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。<br>≪対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫ | S. さらに改善した又は新たに取り組んだ<br>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない<br>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。 | Ａ（概ね従来通りである又は特に問題ない） |
| 上記項目について【ＳまたはＢ】と回答した場合は、その内容について記述してください。<br>Ｓの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。<br>Ｂの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。 | | |
| ≪内容≫ | | |

（４）定員管理の適正化

| | | |
|---|---|---|
| 研究科の在籍学生数を適正に維持する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。<br>≪対応する大学基準：学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫ | S. さらに改善した又は新たに取り組んだ<br>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない<br>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。 | Ａ（概ね従来通りである又は特に問題ない） |
| 上記項目について【ＳまたはＢ】と回答した場合は、その内容について記述してください。<br>Ｓの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。<br>Ｂの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。 | | |
| ≪内容≫ | | |

## Ⅲ．2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

| 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 |
|---|---|
| 中期目標 | 修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に，修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく，海外への情報発信のためのサポートを行う。 |
| 年度目標 | 夜間２コース募集停止に伴い、夜間コースと昼間コースの定員やそのバランスについて検討する。 |
| 達成指標 | 夜間３コース、昼間コースの教員配置を踏まえ、各コースの適正な収容定員についてコース代表者会議で検討する。研究科教授会で昼夜定員やその割合について議論を進める。 |

| | | |
|---|---|---|
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | S |
| | 理由 | 夜間、昼間コースの教員配置に基づいた適正な収容定員について、コース代表者会議、教授会で議論を進めた結果、夜間３コースの昼間を含めた総受け入れ数、昼間コースの総受け入れ数の凡そについての合意を得た。 |
| | 改善策 | 研究科全体の入学定員、そのコース間、昼夜間の内訳については、広報の効果も踏まえつつ、来年度以降も検討が必要である。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 夜間および昼間コースの教員配置に基づいた適正な収容定員について、コース代表者会議や教授会において議論を深め、概ね合意が得られた点は評価できる。また、広報に力を入れたことも評価できる。 |
| | 改善のための提言 | 教員配置の状況を踏まえ、夜間コースと昼間コースのバランスとシナジーを図りながら、夜間コースの定員確保と昼間コースの募集拡大を進めることが可能かを検討する余地がある。 |
| 評価基準 | | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 |
| 中期目標 | | 修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に，修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく，海外への情報発信のためのサポートを行う。 |
| 年度目標 | | 夜間３コースの志願者減について対策を検討する。 |
| 達成指標 | | コース代表者会議にて具体的な対策を議論し、必要な対策を実行に移す。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | S |
| | 理由 | ２度の MBA セミナーで夜間各コース修了生に本研究科や各コースの特徴（良さ）を紹介してもらい、その録画を大学院 HP で公開するなど潜在志願者への等身大の情報発信に努めた。結果、夜間修士課程、博士課程の志願者、合格者が増加した。 |
| | 改善策 | 夜間各コースの特徴（良さ）が潜在的志願者に届くよう引き続き広報を充実させる。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 夜間各コースの志願者の増加および質向上を目指すための情報発信の強化を含む取り組みは評価できる。 |
| | 改善のための提言 | 予算化が可能であれば、広報効果が高いネット広告の実施を検討する価値がある。多くのビジネススクールが開設されている中では、他との差別化を試みる必要がある。そうした方向として修士論文を執筆するなどアカデミックな側面を強調して広報活動を行うのがよい。 |
| 評価基準 | | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 |
| 中期目標 | | 修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に，修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく，海外への情報発信のためのサポートを行う。 |
| 年度目標 | | 所属教員、院生共に拡大傾向のある昼間コースの教育内容を充実させる方策を検討する。 |
| 達成指標 | | 昼間コースの現状の課題の把握につとめる。夜間コースで培ってきたノウハウを共有し、昼間コースの運営体制について一定の方向性を示す。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | A |
| | 理由 | 昼間コースではコース代表教員と学生との懇談会を２度実施し課題の把握に努めた。コース代表者会議では、夜間各コースの集団指導体制について昼間コースとの共有に努めた。教員間の FD 懇談会では昼間演習担当教員から現状の課題を聴取し教授会で共有した。 |

| | | |
|---|---|---|
| | 改善策 | 引き続き昼間コースの課題の把握に努め、これら課題を踏まえた運営体制について検討をすすめていく。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 学生との懇談会や教員のFD懇談会の実施を通じて、昼間コースの課題の把握に努める点は評価できる。課題を踏まえた教育内容の充実およびコース運営体制の改善についての検討がスタートできた。 |
| | 改善のための提言 | 昼間コースのみ所属する教員が増加したことを踏まえ、集団指導体制の導入可否を検討するとともに、多様な専門領域を擁する研究科の特色を学生に理解させ、柔軟かつ効果的に学修・研究できる環境の提供を引き続き検討する意義がある。 |
| 評価基準 | | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 |
| 中期目標 | | 昼間修士，夜間社会人，博士後期課程（一般・社会人）のそれぞれのニーズに合致したより体系立った論文指導を行う体制を構築する。また，研究倫理に関する指導をさらに強化する。 |
| 年度目標 | | 昼間修士課程での演習の指導体制、指導方法に関して検討を進め、一定の方向性を示す。 |
| 達成指標 | | 夜間修士課程で培ってきた指導体制、指導方法のノウハウを共有しつつ、昼夜間の共通点・差異点を明確化し、昼間コースのニーズに応じた指導体制や指導方法について、コース代表者会議、研究科教授会を通じて議論する。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | A |
| | 理由 | コース代表者会議を通じて夜間各コースの指導体制の現状について情報共有に努めた。留学生の多い昼間特有の課題についてはFD懇談会で指導担当経験を有する教員から意見を聴取し教授会にて共有した。留学生のニーズに対応した指導体制や指導方法については、今後も議論が必要である。 |
| | 改善策 | 留学生の多い昼間コースの演習指導体制、指導方法については、来年度以降も継続した議論が必要である。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 留学生の多い昼間コース特有の課題の把握と共有が図られた点は評価に値する。それを踏まえた指導体制や指導方法の検討が今後継続されることが必要である。 |
| | 改善のための提言 | 留学生一人ひとりの入学前の学修経験や研究計画の作成経緯などをも把握し、それを踏まえて演習指導体制のマッチングや指導内容の策定する必要があるかもしれない。特に秋学期のうちに次年度の修士論文・リサーチペーパー指導にスムーズに入れる体制を考える必要があると思われる。 |
| 評価基準 | | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 |
| 中期目標 | | 昼間修士，夜間社会人，博士後期課程（一般・社会人）のそれぞれのニーズに合致したより体系立った論文指導を行う体制を構築する。また，研究倫理に関する指導をさらに強化する。 |
| 年度目標 | | 昼間修士課程でのリサーチペーパー開始に伴い、リサーチペーパー指導上の課題を明らかにする。 |
| 達成指標 | | 昼間コースの演習担当教員間で情報を共有し、現状の課題を抽出する。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | A |
| | 理由 | FD 懇談会を開催し、リサーチペーパー導入初年となる本年度に昼間演習を担当した教員から修士論文との差異も含めて詳細な聴き取りを行った。この聴き取りの録画と結果の取りまとめを教授会メンバーに共有した。良い評価を得たリサーチペーパーは研究成果集としてまとめ、学習支援システムを通じて次年度以降の院生とも共有していくこととなった。 |
| | 改善策 | リサーチペーパーの水準に関する共通認識の醸成に向けて、引き続き教員間の情報 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 共有や、院生への情報発信に努めていく必要がある。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | FD 懇談会の場を活用して、リサーチペーパーの指導経験を表出・共有する取り組みは有意義である。また、次年度以降の院生が閲覧できるように、評価の高いリサーチペーパーを研究成果集としてまとめた点も評価できる。 |
| | 改善のための提言 | 高い評価を得たリサーチペーパーを研究手法等によって分類したうえで、何らかの形で教員間においても共有できれば、リサーチペーパーに関する共通認識の醸成につながる可能性がある。 |
| 評価基準 | | 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】 |
| 中期目標 | | 修士論文および博士論文の質の向上を目指し学位授与率を向上させるとともに，授業担当者による一層の授業内容の向上に努める。 |
| 年度目標 | | 授業内容に関する学生の満足度を向上させる。 |
| 達成指標 | | 修了生アンケートにおける授業内容の満足度について、満足とやや満足を含め８０％以上を目指す。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | A |
| | 理由 | ２月開催の学生懇談会で授業内容や実施方法について意見を聴取、授業内容や研究指導について満足していることを確認した。年２度開催の博士コースワークショップでは全員参加、対面実施を徹底した結果、発表者数が顕著に増加し院生間の相互学習も進んだ。 |
| | 改善策 | 博士コースワークショップでの発表数は増えたが、より活発な議論が行われるような工夫が望まれる。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 学生懇談会や博士後期課程のワークショップを活用して、学生の満足や不満などをヒアリングする取り組みは評価できる。こうした情報を今後の教育と運営に活かされることが期待される。 |
| | 改善のための提言 | 異なる年次の院生同士の交流が増えれば、低年次の学生の不満の解消・緩和につながる可能性があるため、修士課程の中間発表会と博士後期課程のワークショップに加えて、多様な交流の機会の提供や奨励を検討することも重要である。 |
| 評価基準 | | 学生の受け入れ |
| 中期目標 | | 修士・博士課程において学生の質および教員の教育・研究体制等に問題が生じないことを条件として、定員充足率の適正化を図る。 |
| 年度目標 | | 広報の強化により、当研究科の魅力や特色を広く的確に潜在志願者に届ける。 |
| 達成指標 | | 新入生の情報入手経路や進学理由を明らかにした上で、有効な広報媒体を活用し、必要な情報をタイムリーに発信していく。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | S |
| | 理由 | 研究科独自パンフレットのデザイン・内容を一新し配布経路を見直した。大学院 HP、研究科独自 HP が志願者の主情報入手源であることをアンケートで確認の上、両 HP での情報発信を充実させた。MBA セミナーでは夜間コース修士修了生の対談、博士修了生インタビューを実施し大学院 HP で録画を公開した。 |
| | 改善策 | 広報充実の効果を見極めつつ、引き続き有効な広報媒体を通じて当研究科の良さを発信していくことが望まれる。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | パンフレットや HP の刷新・強化によって情報発信を充実させた点は評価できる。 |
| | 改善のための提言 | パンフレットと HP に加えて、SNS やネット広告、コース別の同窓会のネットワークなどを活用して、研究科の特色と魅力をアピールすることも有効になる可能性があ |

| | | |
|---|---|---|
| | | る。他の大学院におけるパンフレットやHPを参照しつつ新たな試みを検討することも必要だと思われる。 |
| 評価基準 | | 教員・教員組織 |
| 中期目標 | | 大学院教育を行えるような優秀な人材の確保に努める。 |
| 年度目標 | | 学部教授会と連携し、大学院教育を担える人材を採用する。 |
| 達成指標 | | 学部人事において、大学院教育を担える人材の採用に結びつける。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | S |
| | 理由 | 学部人事を通じて、大学院にてマーケティング、ファイナンス、国際金融、経営管理関連の科目や演習を担える４名の教員を採用できた。 |
| | 改善策 | 今後も研究科の特徴である多様なバックグランドやニーズを有する院生へ柔軟に対応できる教員の確保に努めていく。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 大学院教育の質維持・質向上を意識した学部人事となっており、大いに評価できる。 |
| | 改善のための提言 | 実務経験が豊かなプロフェッショナルをゲストスピーカーとしてより多く招へいすることが、経営学専攻の院生にとって重要である。 |
| 評価基準 | | 学生支援 |
| 中期目標 | | メンター制度，および留学生向けのチューター制度の認知を高めるとともに，必要な時に利用できる体制とする。 |
| 年度目標 | | メンター制度やチューター制度の周知や一層の活用をはかる。 |
| 達成指標 | | 指導教員決定前の院生に対するメンター教員の支援を強化する。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | S |
| | 理由 | オリエンテーションにてメンター制度の周知を徹底した。指導教員決定前の奨学金の推薦書の依頼、研究指導上の相談等、メンターの活用がすすんだ。 |
| | 改善策 | 留学生向けの支援については、既存の制度の活用実績が伸びない理由も含めて、今後検討が必要である。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | メンター制度やチューター制度の運用を通じて留学生の支援を行っている。 |
| | 改善のための提言 | 先輩後輩間のつながりが希薄であることが、こうした支援制度の利用実績が低迷する理由の一つになると考えられる。交流の機会や場を増やす工夫を検討する価値がある。 |
| 評価基準 | | 社会連携・社会貢献 |
| 中期目標 | | 社会人教育だけでなく、研究成果の社会還元を行うとともに教員の社会貢献活動についても可能な範囲で実施する。 |
| 年度目標 | | 各教員の社会貢献活動を共有し、情報として発信していく。 |
| 達成指標 | | 教員の社会貢献活動についてのアンケートを引き続き実施し、独自ウェブサイト等を通じて情報を発信する。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | S |
| | 理由 | 永年法政ビジネススクールで教鞭をとり本年度退職となる教員に対してインタビューを行い、研究科独自HPでその記録を公開、アーカイブ化した。教員の社会貢献活動についてのアンケートを学部と合同で実施し、研究科独自HPで公開した。 |
| | 改善策 | 研究科独自HP等を通じて本研究科教員ならではのユニークな社会貢献活動を継続して発信していくことが望まれる。 |

| | 質保証委員会による点検・評価 | |
|---|---|---|
| | 所見 | 教員の社会貢献に関わる足跡や実績を記録し、HP 等で公開する点は評価できる。 |
| | 改善のための提言 | 教員の社会貢献についての情報発信と定員充足率の向上のための活動の相乗効果が得られるような方法を検討する余地がある。 |

【重点目標】
夜間３コースの志願者減を食い止め、志願者増につながる対策を検討すると共に、昼間コースの教育内容を拡充する方策を検討する。
【目標を達成するための施策等】
多様な広報媒体を通じて当研究科夜間各コースの魅力や特色を広く的確に潜在志願者に届ける。昼夜コース間での運営体制、指導方法に関する情報共有に努め、夜間コースで培ったノウハウの昼間コースでの有効活用を目指す。昼間コース内での情報共有を促進し、昼間コースの課題発見と対応策の検討につなげる。

【年度目標達成状況総括】
夜間コース志願者減に対応すべく、研究科パンフレットを刷新し、研究科独自 HP での積極的な情報発信に努め、修了生の対談や教員インタビューを複数回実施し、その様子を大学院 HP や研究科 HP で公開するなど、多様な媒体を通じて本研究科の魅力・特色の積極的発信に努めた。修士課程、博士課程共に志願者数、合格者数は増加しており、本研究科の等身大の情報発信が一定の功を奏したと考えられる。懸案の昼間コースの入試体制については、実行可能性を高めた改善策を提示することができた。昼間コースの指導体制については今後の継続課題となったが、昼間コース代表教員と学生の懇談会を実施したり、教員の FD 懇談会を通じてリサーチペーパーや留学生の指導上の課題について教員間での共有をはかる等、来年度以降の検討に資する情報を教授会メンバー間で共有することができた。

## Ⅳ．2025 年度中期目標・年度目標

| 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 |
|---|---|
| 中期目標 | 修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に，修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく，海外への情報発信のためのサポートを行う。 |
| 年度目標 | 所属教員、院生共に拡大傾向のある昼間コースの教育内容を充実させる方策を検討する。 |
| 達成指標 | 昼間コースの現状と課題を把握し、学生のニーズに取り入れた授業編成を行う。 |
| 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 |
| 中期目標 | 修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に，修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく，海外への情報発信のためのサポートを行う。 |
| 年度目標 | 減少傾向にある夜間コースへの志願者数に対して有効な対策を講じる。 |
| 達成指標 | 潜在的志願者のニーズを把握し、それに対応した広報活動を行う。 |
| 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 |
| 中期目標 | 修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に，修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく，海外への情報発信のためのサポートを行う。 |
| 年度目標 | 博士後期課程の学生に対して、研究を海外に情報発信するためのサポートを行う。 |
| 達成指標 | 博士後期課程の学生に対して、海外学会での発表や海外ジャーナルへの投稿ノウハウを講義する。 |
| 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 |
| 中期目標 | 昼間修士，夜間社会人，博士後期課程（一般・社会人）のそれぞれのニーズに合致したより体系立った論文指導を行う体制を構築する。また，研究倫理に関する指導をさらに |

| | |
|---|---|
| | 強化する。 |
| 年度目標 | 昼間コースの演習の集団指導体制および指導方法に関して検討を進める。 |
| 達成指標 | 昼間コースの学生の多様な関心分野やニーズに適した集団指導体制を検討し、制度構築の方向を示す。 |
| 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 |
| 中期目標 | 昼間修士，夜間社会人，博士後期課程（一般・社会人）のそれぞれのニーズに合致したより体系立った論文指導を行う体制を構築する。また，研究倫理に関する指導をさらに強化する。 |
| 年度目標 | リサーチペーパーの内容や期待水準を教員間で共有する。 |
| 達成指標 | 昼間コースの演習担当教員間で、リサーチペーパーの内容、研究手法、期待水準等に関して情報および認識の交換をし、収束すべき方向を示す。 |
| 評価基準 | 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】 |
| 中期目標 | 修士論文および博士論文の質の向上を目指し学位授与率を向上させるとともに，授業担当者による一層の授業内容の向上に努める。 |
| 年度目標 | 修士論文、リサーチペーパー、博士学位論文の質の向上を目指す。 |
| 達成指標 | 修士課程、博士課程ともに、指導教員以外の教員からの助言を受ける機会を増やす。 |
| 評価基準 | 学生の受け入れ |
| 中期目標 | 修士・博士課程において学生の質および教員の教育・研究体制等に問題が生じないことを条件として、定員充足率の適正化を図る。 |
| 年度目標 | 競合大学院とは差別化された魅力や特色を、潜在志願者に伝える。 |
| 達成指標 | 経営学研究科の差別化された魅力や特色を特定する。<br>差別化された魅力や特色を強調した広報活動を行う。 |
| 評価基準 | 教員・教員組織 |
| 中期目標 | 大学院教育を行えるような優秀な人材の確保に努める。 |
| 年度目標 | 経営学部と連携し、大学院教育を担える人材を採用する。 |
| 達成指標 | 経営学部の人事採用セミナーに参加し、大学院教育を担える人材の確保に結びつける。 |
| 評価基準 | 学生支援 |
| 中期目標 | メンター制度，および留学生向けのチューター制度の認知を高めるとともに，必要な時に利用できる体制とする。 |
| 年度目標 | メンター制度やチューター制度の周知や一層の活用をはかる。 |
| 達成指標 | メンター制度やチューター制度の周知を年度を通じて継続的に行う。 |
| 評価基準 | 社会連携・社会貢献 |
| 中期目標 | 社会人教育だけでなく、研究成果の社会還元を行うとともに教員の社会貢献活動についても可能な範囲で実施する。 |
| 年度目標 | 各教員の社会貢献活動を情報発信する。 |
| 達成指標 | 教員の社会貢献活動についてのアンケートを実施する。<br>特筆すべき社会貢献活動をとりあげ、ウェブサイト等を通じて情報発信する。 |

【重点目標】
昼間修士コースの授業編成および研究指導体制を検討する。
【目標を達成するための施策等】
学生の関心分野やニーズを年度を通じて把握していく。現状を把握した上で、夜間コースよりも相対的に講義の多様性が限られている昼間コースの授業編成を行っていく。
昼間コースのリサーチペーパーに関する共通認識を教員間を作りだすために、年度を通じて検討していく。一定の認識を共有した上で、適切な集団指導方法や個別指導方法を検討していく。

IV-2.2025年度中期目標・年度目標達成状況報告書

# 経営学研究科

| 評価基準 | 中期目標<br>（2022－2025年度） | 年度目標 | 達成指標 | 年度末報告 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 教授会執行部による点検・評価（教授会承認） | | | 質保証委員会による点検・評価（教授会報告） | |
| | | | | 自己評価 | 理由 | 改善策 | 所見（達成状況の評価とその理由） | 改善のための提言 |
| 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 | 修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に，修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく，海外への情報発信のためのサポートを行う。 | 所属教員、院生共に拡大傾向のある昼間コースの教育内容を充実させる方策を検討する。 | 昼間コースの現状と課題を把握し、学生のニーズを取り入れた授業編成を行う。 | A | 昼間コースおよび夜間コースの学生との懇談会を実施し、現状と課題の把握に努めた。<br>夜間コースの教員と連携し、昼間コースに多くの領域の科目を開講した。<br>26年度授業編成では、アカウンティング領域の科目を新設するとともに、ニーズが低くなった科目の廃止を行った。 | リサーチペーパーの導入後、昼間コースの大幅な改編が議論されている。リサーチペーパー指導に関する改編作業と一貫させる形で、授業編成に関する議論をしていく。 | 夜間コースの教員と連携し、昼間コースに多くの科目を開講したことは良い試みである。<br>アカウンティング領域の選択肢が増えたのも評価したい。<br>コース参加者の要求を柔軟に受け取る制度があるということが重要である。 | 学生のニーズを把握し、科目が充実していない領域を拡充していくと良い。<br>大学院としての目的・方向性を踏まえて、個別事項（科目の充実など）に対応していくと良いのではないか。社会科学の方法論（定性・定量分析の重要性）を教授する科目があると良い。 |
| 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 | 修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に，修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく，海外への情報発信のためのサポートを行う。 | 減少傾向にある夜間コースへの志願者数に対して有効な対策を講じる。 | 潜在的志願者のニーズを把握し、それに対応した広報活動を行う。 | A | 他大学の社会人大学院と比較した際の夜間コースの特徴である修士論文を強調するために、教員の研究や修了生の論文作成に焦点をあてたMBAセミナーを行った。これは、実務志向だけでなく研究志向のある受験者・入学者が多いというアンケート結果を活用した方策である。 | オンラインでの広報を、より充実させていく。そのためのメディアである研究科独自のウエブサイトを保有しているので、この潜在力を引き出す活用法を試行していく。ソーシャルメディアをどのように活用すれば効果的であるかも考えていく。 | これまでのMBAセミナーは実務向けであったが、アカデミックな側面を宣伝できたのは良かった。<br>修士論文を書くのは研究科の特色であり、それを発信できたことは評価できる。 | ホームページは重要な情報源なので、こまめに更新し充実できると良い。ソーシャルメディアと連動させたホームページの運用ができないだろうか。<br>カリキュラム（具体的に何をどのように学べるのか）を外部にも分かりやすく伝えられると良い。修士論文を課すのが夜間コースの特徴であれば、どのように修士論文の作成を進めていくのかが見えるホームページになっているとよい。 |
| 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 | 修士（夜間）のコース制の再編に関する議論を重ねると共に，修士（昼間）コースの授業内容を充実させる。博士後期課程では国内だけではなく，海外への情報発信のためのサポートを行う。 | 博士後期課程の学生に対して、研究を海外に情報発信するためのサポートを行う。 | 博士後期課程の学生に対して、海外学会での発表や海外ジャーナルへの投稿ノウハウを講義する。 | S | 博士課程ワークショップの際に海外ジャーナル投稿に関する情報を提供した。<br>海外ジャーナルに掲載されるよう研究水準を向上させるために、fsQCA、systematic literature review等のセミナーを博士課程学生向けに実施した。<br>海外ジャーナルへの投稿の障害とならないように研究倫理審査制度を整えた。 | — | 海外ジャーナル投稿に関する情報提供や方法論のセミナーなどは、これまでになかった試みで高く評価できる。 | 英語での研究発信には慣れが必要なので、海外からの研究者の特別講義など、英語で学ぶ機会があると良い。 |
| 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 | 昼間修士，夜間社会人，博士後期課程（一般・社会人）のそれぞれのニーズに合致したより体系立った論文指導を行う体制を構築する。また，研究倫理に関する指導をさらに強化する。 | 昼間コースの演習の集団指導体制および指導方法に関して検討を進める。 | 昼間コースの学生の多様な関心分野やニーズに適した集団指導体制を検討し、制度構築の方向を示す。 | S | 教授会、コース代表会議、FD懇談会で昼間コースのリサーチペーパー指導体制に関して数か月にわたり議論した。<br>26年度の昼間コースの入学者からは、領域への所属を基盤とした指導体制としない方向で議論が進んでいる。これにより、研究分野が固定されず、学生は多様な関心分野の研究を行うことができるようになる。これに対応した指導体制をどのように構築するかを検討し、26年後から試行していく。<br>学生の所属領域を固定しないことで、多様な研究領域の教員による集団指導が可能になると思われる。<br>研究倫理に関しては、学部と協働して、研究倫理の審査体制を整えた。 | — | リサーチペーパーという新制度の指導体制を議論したことは評価できる。 | 引き続き指導方法や指導体制などを議論することが必要である。<br>領域を問わず最低限持つべき知識（定性・定量分析など）を習得できる体系化された体制があると良い。 |
| 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 | 昼間修士，夜間社会人，博士後期課程（一般・社会人）のそれぞれのニーズに合致したより体系立った論文指導を行う体制を構築する。また，研究倫理に関する指導をさらに強化する。 | リサーチペーパーの内容や期待水準を教員間で共有する。 | 昼間コースの演習担当教員間で、リサーチペーパーの内容、研究手法、期待水準等に関して情報および認識の交換をし、収束すべき方向を示す。 | S | コース代表会議やFD懇談会で、リサーチペーパーの内容や期待水準、指導体制に関して意見交換・議論を行った。<br>リサーチペーパーの内容や期待水準に関しては、教員間に認識のばらつきがあるが、リサーチペーパーの指導、審査、さらにFD懇談会での意見交換・議論を通して、収束する方向性はある程度見いだせた。<br>適切な指導体制を構築し、個別・集団指導を重ねていくことで、リサーチペーパーの内容や水準に関する教員間の認識のばらつきをなくしていく、という議論をFD懇談会で行った。 | — | リサーチペーパーの内容・水準・指導体制を議論し、方向性を見出したことは評価できる。<br>良い方向に向かっていると思われる。 | 引き続き議論が必要である。<br>各教員の演習ではばらつきがあるので、リサーチペーパー・修論・博論の書き方を全体で学ぶ機会があると良い。 |
| 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】 | 修士論文および博士論文の質の向上を目指し学位授与率を向上させるとともに，授業担当者による一層の授業内容の向上に努める。 | 修士論文、リサーチペーパー、博士学位論文の質の向上を目指す。 | 修士課程、博士課程ともに、指導教員以外の教員からの助言を受ける機会を増やす。 | A | 夜間３コースに関しては、各コースでの集団指導を通して、指導教員以外からの助言を受ける機会を設けている。<br>昼間コースに関しては、中間発表会を実施して集団指導を行った。<br>博士課程に関しては、副指導教員が設置されている。さらに、博士ワークショップは、副指導教員や研究分野が近い教員からの助言を得る機会となっている。 | 中間発表会や博士ワークショップ以外の場で、指導教員以外の助言を受ける機会を作れるか検討していく。 | 昼間コースの中間発表会が、複数の領域の学生が参加して行われたことは評価できる。 | 昼間コースと夜間コースの交流（共同発表会など）があると良い。<br>AIの利用によって、特に留学生の論文の質は格段に向上している。AIの利用について、担当者間の議論の上、何かしらの合意が必要ではないか。 |

| 評価基準 | 中期目標<br>（2022－2025年度） | 年度目標 | 達成指標 | 年度末報告 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 教授会執行部による点検・評価（教授会承認） | | | 質保証委員会による点検・評価（教授会報告） | |
| | | | | 自己評価 | 理由 | 改善策 | 所見（達成状況の評価とその理由） | 改善のための提言 |
| 学生の受け入れ | 修士・博士課程において学生の質および教員の教育・研究体制等に問題が生じないことを条件として、定員充足率の適正化を図る。 | 競合大学院とは差別化された魅力や特色を、潜在志願者に伝える。 | 経営学研究科の差別化された魅力や特色を特定する。<br>差別化された魅力や特色を強調した広報活動を行う。 | S | 競合社会人大学院に対する、経営学研究科夜間コースの差別化された特色は、修士論文を課していることである。これが魅力・特色として学生や受験者から認識されていることを、アンケート結果等から把握した。<br>研究色が強い夜間コースであることを潜在的志願者に伝えるために、教員および修了生による研究にフォーカスしたMBAセミナーを２回開催した。 | ― | アカデミックな特色をMBAセミナー等で広報できたことは評価できる。<br>地道な努力が、博士課程の志願者増につながっているのではないだろうか。 | 志願者が特定の分野に偏っているのはなぜかを検証してはどうか。<br>広報の効果の測定を外部に依頼し、効果を明らかにしてはどうか。 |
| 教員・教員組織 | 大学院教育を行えるような優秀な人材の確保に努める。 | 経営学部と連携し、大学院教育を担える人材を採用する。 | 経営学部の人事採用セミナーに参加し、大学院教育を担える人材の確保に結びつける。 | A | 学部人事を通して、経営戦略、流通・マーケティング、ファイナンスの科目や演習を担当できる教員を採用できた。<br>同様に、学部人事を通して、AI・データサイエンス関連の科目や演習を将来的に担当できる教員を採用できた。 | 学部執行部との会議や、経営学部における教学問題委員会などを通じて、大学院の教員組織に関する要望を伝えていく。 | 大学院独自の人事は難しいので、大学院の科目を担当できる人材を採用できたことは評価できる。<br>厳正に審査して教員採用が行われているので、大学院を担当できる教員が採用できている。 | 分野の第一人者やそれに近い教員が充実しているが、上手く外部に周知できているかは疑問である。 |
| 学生支援 | メンター制度，および留学生向けのチューター制度の認知を高めるとともに，必要な時に利用できる体制とする。 | メンター制度やチューター制度の周知や一層の活用をはかる。 | メンター制度やチューター制度の周知を年度を通じて継続的に行う。 | A | 新入生オリエンテーションでメンター制度およびチューター制度の周知を行った。<br>チューター制度の利用希望学生とチューターとのマッチングを、他研究科のチューターに頼らずに行うことができた。<br>大学院棟の経営学専攻室を院生の研究・交流の場として活用できるように整備を始めた。<br>指導教員決定前の学生サポート制度として、メンター教員が学生をサポートした。 | AIが発達することにより、言語面のサポートを目的としたチューター制度の活用が減っていく可能性がある。チューターの役割の変化を検討する必要性を認識しておく。 | メンター制度やチューター制度が周知できている。 | チューター制度は有効に活用されていないので、実効性を高めるための方法を議論する必要がある。<br>チューターは相性があるので、上手く機能させることは難しいが、制度を維持していくことは重要である。充実したチューター制度にするためには何らかの工夫が必要である。 |
| 社会貢献・社会連携 | 社会人教育だけでなく、研究成果の社会還元を行うとともに教員の社会貢献活動についても可能な範囲で実施する。 | 各教員の社会貢献活動を情報発信する。 | 教員の社会貢献活動についてのアンケートを実施する。<br>特筆すべき社会貢献活動をとりあげ、ウェブサイト等を通じて情報発信する。 | A | 経営学研究科独自ウエブサイトに、退任した教員の長期にわたる社会貢献活動をインタビュー形式で掲載してある。<br>教員の社会貢献活動に関する情報を、独自ウエブサイトに掲載してある。 | 教員の社会貢献活動に関する情報が見にくいので、わかりやすい表示にするための工夫をする。<br>大学院独自ウェブサイトを通じて、教員の社会貢献活動や研究成果の発信を進めていく。 | ホームページに社会貢献活動を掲載しているのは評価できる。 | 教員の多様な社会貢献活動がホームページに掲載されているが、見つけにくくなっている。発信方法の工夫（独自ウェブサイトの刷新や広報およびその効果測定を外部に依頼するなど）が必要である。 |

自己評価について
- S　目標を十分達成し、質の向上が顕著である。
- A　目標をほぼ達成し、質の向上が見られる。
- B　目標の達成が不十分である。
- C　目標が達成できていない。

| 【重点目標】 | 【目標を達成するための施策等】 |
|---|---|
| 昼間修士コースの授業編成および研究指導体制を検討する。 | 学生の関心分野やニーズを年度を通じて把握していく。現状を把握した上で、夜間コースよりも相対的に講義の多様性が限られている昼間コースの授業編成を行っていく。<br>昼間コースのリサーチペーパーに関する共通認識を教員間を作りだすために、年度を通じて検討していく。一定の認識を共有した上で、適切な集団指導方法や個別指導方法を検討していく。 |

【年度目標達成状況総括】

昼間コースのリサーチペーパーに関しては、内容や期待水準に関して、教員間のばらつきがあり、合意が取れていない状態である。教授会、コース代表会議、FD懇談会において、年間を通して共通認識の形成に務めた。その結果、リサーチペーパーとはどのようなもので、どのように指導するかについて、共通の認識が形成されつつある。
来年度の昼間コースの入学者は、どの領域に属するかが入学時点では決まっていない。この条件のもとで、学生の多様な関心分野を吸収できるような指導体制をどのように構築するかを年間を通して検討した。検討する課程で、昼間コースにおける領域の意味や、リサーチペーパーの内容や水準に関する議論も行った。
昼間コースおよび夜間コースの学生との懇談会を実施し、授業編成や授業内容に関する要望や課題の把握に努めた。今年度は、夜間コースと連携し、昼間コースに多くの領域の科目を開講し、昼間コースの講義の多様性を確保することに務めた。来年度に関しても、多くの領域の講義が学べるように夜間コースと連携して授業編成を行った。さらに、26年度授業編成では、アカウンティング領域の科目を新設するとともに、ニーズが低くなった科目の廃止を行った。